

(ご参考資料)

2009年5月8日
国立環境研究所
筑波大学大学院
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ

「スポーツのエコ・プラスバリュー」調査研究を実施

－ スポーツがもたらす『感動』による環境付加価値を測定 －

国立環境研究所、筑波大学大学院、博報堂DYメディアパートナーズの三者共同研究

国立環境研究所 社会環境システム研究領域・環境計画研究室(主任研究員:森保文)、筑波大学大学院 生命環境科学研究科・社会環境システム研究室(氷鮑揚四郎教授)、株式会社博報堂DYメディアパートナーズ(本社:東京都港区、社長:佐藤孝 以下博報堂DYメディアパートナーズ)は共同で、スポーツが生活者に与える『感動』による環境付加価値の測定やCO2削減効果の検証を行う「スポーツのエコ・プラスバリュー」調査研究を実施いたします。

「スポーツのエコ・プラスバリュー」調査研究では、スポーツがもたらす環境に対する意識が環境保全において果たす役割や影響力を測定、解明することを目的としています。スタジアムでのアナウンス告知、公式サイトやクラブ会報誌などで呼びかける環境アクションへの参加を呼びかけ、参加した生活者にアンケート調査などを実施。結果を分析し、スポーツがもたらす環境意識および行動誘因のポテンシャルなどを定量的に解明するとともに、環境負荷をどの程度低減できたかを算出し、「環境コミュニケーションによる CO2 削減効果」などを検証します。

この調査研究は、コンテンツホルダー、研究機関、そして広告会社が共同で実施することによって可能になり、より深い環境コミュニケーション・デザインを作り上げます。これにより、スポーツの持つ潜在的な環境活動誘発要素とその行動誘因を兼ね備えた新しい形のエコプロジェクトを実現します。

国立環境研究所、筑波大学大学院、博報堂DYメディアパートナーズは、今調査研究の調査結果を踏まえ、今回の調査にとどまらず今後もスポーツと環境コミュニケーションに関する様々な研究、知見を蓄積していきます。

■調査実施企画の概要

「鹿島アントラーズ・エコプログラム」 ～みんなで集めた食用油で、チームトラックを動かそうプロジェクト～

- ・調査内容： スポーツがもたらす環境に対する意識を調査。クラブチームから、環境アクションへの参加を呼びかけ、参加したサポーターにアンケート調査を実施。
※09年3月に別途実施した、一般生活者を対象とした環境意識調査結果と比較などを行います。
- ・実施内容： 家庭で使った「廃食用油」を回収。これを BDF(バイオディーゼル燃料)に精製して、鹿島アントラーズの選手が使用するユニフォーム、スパイク、練習用ボールなどを運搬するチームトラックの燃料にします。
- ・参加特典： 抽選資格付き「ECO Thanks CARD」の配布
 - ①会報誌「月刊アントラーズ・フリークス」公開取材優先入場券を抽選で5名にプレゼント
 - ②アンケートに答えると、サイン入りユニフォーム・ボール、色紙など抽選でプレゼント
- ・実施日時： 2009年5月10日(日) 対 清水エスパルス戦
- ・企画、運営： 鹿島アントラーズ FC・国立環境研究所・筑波大学・博報堂DYメディアパートナーズ
- ・特別協力： チーム・マイナス6%(環境省)

■この件に関するお問い合わせ先

博報堂DYメディアパートナーズ 広報グループ 加藤、舟橋 03-6441-9347

筑波大学大学院 生命環境科学研究科・社会環境システム研究室 杉浦 029-853-7255

国立環境研究所 社会環境システム研究領域・環境計画研究室

主任研究員 森 029-850-2539